

救世軍公報



GOOD NEWS と きの こ え

令和2年7月豪雨により被災された皆様へ、謹んでお見舞い申し上げます。復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。



「今日（こんにち）そうであるように、女性たちが泣く限り、私は戦う。今日（こんにち）そうであるように、幼い子どもたちが飢える限り、私は戦う。今日（こんにち）そうであるように、男たちが刑務所に入りする限り、私は戦う。酔漢（よひん）が残っている限り、街頭に哀れな失われた娘がいる限り、神の光を受けない一人の暗黒な魂を始める。やがて、救世軍という名のもとに活動

が進む中、働きの精神を表す「3S」——Sound（食事）、Soap（石鹸）、衛生状態の改善の意、Salvation（救い）という言葉が生まれました。これは、聖書の言葉「福音（良い知らせ）を届けるには、まず極限状態にある人々のニーズに応えて、その飢えを満たし、清潔で人間的な環境を提供する必要があります。あることを意味します。人の尊厳が回復されてはじめて、人は、福音をその心に受け入れられるからです。神は、人間をご自分からかたどって造られました。神にとりて、一人ひとりが愛おしい存在であり、その命は、尊く、貴いものです。神は、すべての人が救われて、生きる喜びを味わい、幸せになることを望んでおられるのです。

産業革命後の社会的混乱期にあって、ブースは、妻カサリンと共に「3S」の精神で活動を展開しました。それは、目の前の「一人」を救う、「戦い」でした。ここで特記したいのは、女性に参政権がなく、公共の場において女性が発言することも認められていなかったその当時に、創立者夫妻が男女平等の実現に取り組んだことです。ブースはもとより、妻も、自分が受

写真・コロナ禍にあって、路上にいる子どもたちに食事を届ける支援（ホンジュラス）

War Cry

10月号

福音版
2020
October
No.2807

二〇二〇年 十月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

<https://www.salvationarmy.or.jp>



世界をみつめて

〈英国〉ロンドン消防隊から15年間の支援活動への感謝

英国ロンドンのクラブトン小隊（教会にあたる）の救世軍士官（伝道者）カール・グレイ少佐（救世軍での階級）は、8月6日（木）、ロンドン消防隊より表彰されました。

グレイ少佐は、これまでの15年間、440件以上の火事現場で、消防活動にあたる消防士への軽食と飲み物を提供する支援をおこないながら、消防士の声に耳を傾けてきました。その現場の中には、2005年のロンドン爆破事件、2017年のグレンフェル・タワー（ロンドン西部の高層住宅棟）火災の現場もありました。

このグレイ少佐は、4月に新型コロナウイルスに罹患。8週間の入院治療後、5週間在宅治療を受けていました。

ロンドン消防隊は、グレイ少佐の明るい笑顔と温かい飲み物、サンドイッチが、火災現場でどんなに消防士を支えていることか、と感謝を述べ、グレイ少佐の入院中には現場が寂しかったことや、グレイ少佐の回復と現場復帰を喜ぶ言葉も添えられていました。



〈インドネシア〉女性たちと子どもたちの能力向上のために

インドネシア政府は「ゴールデン・ジェネレーション」（2030年に人口増加が見込まれ、2045年にはインドネシアが経済大国の一つになることを予測し定めた）を掲げて、必要な環境づくりに取り組んでいます。救世軍も、女性

女性たちが泣く限り

石川 節子

「今日（こんにち）そうであるように、女性たちが泣く限り、私は戦う。今日（こんにち）そうであるように、幼い子どもたちが飢える限り、私は戦う。今日（こんにち）そうであるように、男たちが刑務所に入りする限り、私は戦う。酔漢（よひん）が残っている限り、街頭に哀れな失われた娘がいる限り、神の光を受けない一人の暗黒な魂

でも残っている限り、私は戦う。私はまさに最期に至るまで戦う！」
これは、救世軍の創立者（初代救世軍大将）ウィリアム・ブースの言葉です。英国・東ロンドンの貧民街で、救世軍の基となる働きを始めました。やがて、救世軍という名のもとに活動

が進む中、働きの精神を表す「3S」——Sound（食事）、Soap（石鹸）、衛生状態の改善の意、Salvation（救い）という言葉が生まれました。これは、聖書の言葉「福音（良い知らせ）を届けるには、まず極限状態にある人々のニーズに応えて、その飢えを満たし、清潔で人間的な環境を提供する必要があります。あることを意味します。人の尊厳が回復されてはじめて、人は、福音をその心に受け入れられるからです。神は、人間をご自分からかたどって造られました。神にとりて、一人ひとりが愛おしい存在であり、その命は、尊く、貴いものです。神は、すべての人が救われて、生きる喜びを味わい、幸せになることを望んでおられるのです。

産業革命後の社会的混乱期にあって、ブースは、妻カサリンと共に「3S」の精神で活動を展開しました。それは、目の前の「一人」を救う、「戦い」でした。ここで特記したいのは、女性に参政権がなく、公共の場において女性が発言することも認められていなかったその当時に、創立者夫妻が男女平等の実現に取り組んだことです。ブースはもとより、妻も、自分が受

「人が独りであるのは良くない。彼にふさわしい助け手を作ろう。」（創世記2章18節 聖書協会共同訳）
「ふさわしい助け手」の原語の意味は「彼と向かい合う者としての助け手」です。ヘルパー・補助者ではなく、むしろ助け手がなければ欠けを生じるほどに、互いにとって必要不可欠な関係を意味します。神は、男アダムのために彼の最も必要な助け手・パートナーとして、もう一人の一人一人を造られたのでした。男が女を支配することは、神が、人を創造されたときに求めておられた関係ではありません。現代でも、女であるという理由だけで多くの差別が起こっています。現代の奴隷制度として、強制労働や性的搾取などがあり、女性が連れ去られ、騙され、虐

（救世軍士官（伝道者））

の働きとして、子どもたちに適切な教育や養育環境を与えられるよう、能力向上プログラムを計画しています。

また、女性の起業や小規模事業の継続のために少額融資もおこなっています。同じ地域の女性たちで定期的に情報共有する場を設け、貯蓄計画のための支援もしています。

コロナ禍においても、救世軍の運営する107の学校は、できるだけ教育環境を維持し、子どもたちを支えています。感染の広がる地域ではリモートによる学習環境などが脆弱な地方では、政府がテレビを通して学ぶシステムを構築しました。また、感染の少ない僻地などでは学校が再開しています。



救世軍とは？ What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブースによって始められ、家のない人々、仕事に就けない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や顧みられない子どもたち、災害に遭った人々などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895（明治28）年に始まり、伝道の拠点である小隊（教会にあたる）を開設。廃娼運動、失業者対策、病院や結核療養所の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは山室軍平です。山室は、キリスト教界及び医療・社会福祉分野における先駆者の一人にも数えられています。

発行日及び定価
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行除く七月

定価
福音版 一部 四〇円
広報版 一部 一〇〇円
クリスマス特集号（十一月一日号） 一部 一〇〇円
振替 〇〇・八〇・五四〇〇

発行兼印刷人 救世軍
代表者 ケネス・メイナード
編集人 寺澤 眞由子

〒101-0051 東京都千代田区
電話 03-3337-0881
東京 03-3337-0881
神田 03-3337-0881

印刷所 救世軍本営
ピーアンドエス

（取扱支部）
救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではおられません。これらの問題ではお悩みの場合は、右救世軍にご相談ください。

聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会



そうして、長年アフリカで多くの女性グループに協力する中で、女性が、自分と家族の日常を支える技術を持ち、重労働をしている様子を見ていました。

そんなある時、「アザーズ」のディレクターがケニアに来るため、私がケニアの女性たちが作ることができる製品を紹介することになりました。「アザーズ」のスタッフとの会話から、その働きが、女性たちに長期にわたる機会を提供していることを知りました。そこで二〇〇九年、ケニアの「アザーズ」が、たった五人の女性によって始められ、私もスタッフとなりました。ケニアの「アザーズ」で出会った女性たちの物語は私の人生に大きな影響を与えました。

ドアの前に立った日のことを、私は決して忘れません。彼女は、自分が目標を達成できたことを本当に誇りに思

マグダレン（写真左）は、貧しい地域の貧しい家庭で暮らしていて、日常生活にも大変苦労していました。大家族にもかかわらず、病気の夫は、最低限の生活費も稼げませんでした。彼女の住む地域で「アザーズ」の働きが始まった時、マグダレンは、再生紙ビーズの作り方を学び、収入を得始めました。そして、彼女が最初にしたのは、自分の子どもを学校に通わせることでした。彼女は、自分の生活力への自信が高まるにつれ、より大きな夢を抱くようになり、自宅に新しいドアを買って、安全な生活をするので、彼女は、一生懸命働いてお金を貯め、ついにドアを買うことができました！

その後、米国に戻った私は、米国での「アザーズ」製品の市場を確立しました。救世軍の創立者ウイリアム・ブースが、著書『最暗黒の英国とその出路』で言及したように、人間にとって、堅実でやりがいのある仕事が必要であることを救世軍は認識しています。

それは、今の時代も同じです。労働者の権利が保護され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事は、「持続可能な開発目標」(SDGs)の一つ、八番目



誇りをもって働くバングラデシュの女性たち

わたしたちは、日々だれかが作っている物を買います。買う物を選ぶ時、それが、だれかの犠牲によって作られている物が、それとも労働者に対して尊敬と敬意をもって適切に賃金が払われて作られている物かと考えたことがありますか？ 商品選択は、だれかの人生に大きな違いをもたらします。

「アザーズ」は、一九九〇年代後半に、貧しい女性たちと共にバングラデシュで始まりました。女性たちは製品作りに加え、識字能力、健康管理、貯蓄、そして起業の方法についての教育を受けられます。バングラデシュの救世軍は、彼女たちの仕事が必要だと気づき、「アザーズ」(当時の名前は「サリーアン」)の働きを始めました。現在、ケニアとバングラデシュの制作者たちと連携し、販路は、ノルウェー、米国、カナダ、英国に拡大しました。「アザーズ」製品を購入することで、だれでも直接的に制作者と家族、その地域をサポートすることができます。

私の好きな聖書の言葉は、「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」(フィリピの信徒への手紙4章13節)です。私の人生が、私を強めてくださるキリストを知

わたしたちの「アザーズ」は、私が働いた五年の間に、三百人の制作者たちと連携する働きにまで成長しました。

ケニアの「アザーズ」は、私が働いた五年の間に、三百人の制作者たちと連携する働きにまで成長しました。

ケニアの「アザーズ」は、私が働いた五年の間に、三百人の制作者たちと連携する働きにまで成長しました。

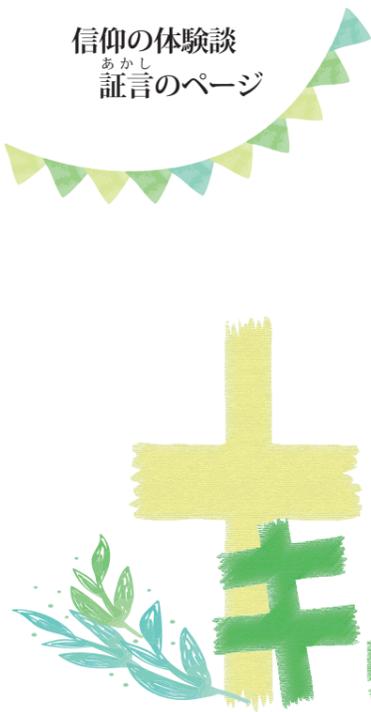
「アザーズ」の製品を手にとったとき、その製品を作っている人々の人生を想像していただければ嬉しいです。

「わたしたちが何かを購入する時には、わたしたちは、実現させたいと思う世界への一票を投じているのです。」(アンナ・ラッペ(米国人著作家・教育者、持続可能な食品システムの専門家))



この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。

貧困や限界の中にある女性たちに、新しいドアを提供する「アザーズ」



信仰の体験談
あかし
証言のページ

<プロフィール>
救世軍の米国東部軍国本営(本部)で、フェアトレードの部門である、「Others Trade for Hope」(「アザーズ」(他の人々) 希望への取引)の責任者を務める。

「アザーズ」は、救世軍の地球規模の社会的企業。1,000人以上の制作者と提携し、美しい手づくり製品を地元と国際市場で販売している。

※日本の救世軍本営(連絡先は4ページに掲載)内、出版供給部でも「アザーズ」の製品をご購入いただけます。

ぜひ、QRコードで「アザーズ」の動画をご視聴ください。



「アザーズ」ディレクター
エイプリル・フォスターさん

だれでもできる、貧しい女性たちを支える働き「アザーズ」

「アザーズ」は、一九九〇年代後半に、貧しい女性たちと共にバングラデシュで始まりました。女性たちは製品作りに加え、識字能力、健康管理、貯蓄、そして起業の方法についての教育を受けられます。バングラデシュの救世軍は、彼女たちの仕事が必要だと気づき、「アザーズ」(当時の名前は「サリーアン」)の働きを始めました。現在、ケニアとバングラデシュの制作者たちと連携し、販路は、ノルウェー、米国、カナダ、英国に拡大しました。「アザーズ」製品を購入することで、だれでも直接的に制作者と家族、その地域をサポートすることができます。

女性たちの働く喜びとその心は、世界中に届けられています



バングラデシュ南西部の僻地シヤンカープール地区で作られる刺繍されたハートは、「アザーズ」で最も人気のある製品の一つです。毎年、何千ものハートがこの小さなコミュニティの職人たちによって作られ、

青年時代の願いがかなって、地域開発のために、長年アフリカで働きました

救世軍の信徒として、私は若い時から海外で働きたいと思っていました。大学でそのための知識を得、卒業後、カリブにある、救世軍の盲学校で教師として三年間働きました。その後、米国に帰って数年学び、今度は、ジンバブエの救世軍の学校で教師を務め、その後、ケニアで二十年間働きました。ケニアでは、アフリカ全体の健康と地域開発

プログラム・チームの一員として働きました。

この間、私は人々を貧困から救うための多くのプロジェクトを見ました。いくつかは成功しても、成功しなかった多くのプロジェクトがありました。その経験から、成功の秘訣が、プロジェクトの計画と意思決定にいかにか人が責任を持ち、関与するか、ということであることがわかりました。



バイクレポートバスで輸送され、首都ダッカの「アザーズ」に到着し、品質チェックと梱包を経て、世界中に発送されています。このハートの辿る旅は、まるで、それらを作っている女性たちの旅のようです。

二十歳のニバ(写真右)は、一人息子を育てています。夫は出稼ぎ労働のため、職場の縫製工場の近くに家を借り、家賃を払いながら働いています。三カ月ごとに一週間しか帰宅できません。夫の失業中には借金をして生活をしのいだため、ニバは、「アザーズ」で働くことで負債を完済、息子を養い続けることができました。ニバはこう言っています。「アザーズ」の製品を作っていると、心の中に大きな喜びを感じるんです。」

クリトリ

ご住所

ご氏名

私の近くの救世軍を紹介してください。

キリスト教についてもっと知りたいです。

『ときのかえ』の購読を申し込みます。